

天理市埋蔵文化財センターだより Vol.20

平成27年度夏の文化財展

第II部

「天理駅」のはじまり ～天理軽便鉄道開通100年～

第I部

織田柳本藩立藩400年 柳本藩の遺産



◎平成27年度夏の文化財展

第I部 織田柳本藩立藩400年 柳本藩の遺産

第II部 「天理駅」のはじまり

～天理軽便鉄道開通100年～

平成27(2015)年7月4日(土)～8月2日(日)

※ 9:00～17:00

※ 毎週月曜日と20日(月・祝)、21日(火)は休館

会場：天理市文化センター1階展示ホール

.....

◎文化財講演会と展示解説

会場 天理市文化センター1階展示ホール

【第1回 柳本藩・天理軽便鉄道関連】

日程 7月19日(日)14:00～16:30

【第2回 柳本藩関連】

日程 7月26日(日)14:00～16:30

天理市内には、原始・古代から近現代に至る数多くの文化財が所在します。天理市教育委員会文化財課では、平成18年度より夏と冬、年2回の文化財展示をおこない、市内の文化財と市の歴史について理解を深めていただけるよう努めています。

平成27(2015)年は柳本藩立藩400周年と天理軽便鉄道開通100周年にあたります。今回は平成27年度夏の文化財展の内容にあわせ、『織田柳本藩立藩400年 柳本藩の遺産』と『「天理駅」のはじまり～天理軽便鉄道開通100年～』の2部構成とします。

第I部 織田柳本藩立藩400年「柳本藩の遺産」

天理市の南部、龍王山麓に広がる柳本は、江戸時代に織田・柳本藩が陣屋を築いたところです。慶長5年(1600年)に信長の弟、織田長益(有楽斎)の知行地となり、元和元年(1615年)には有楽斎の五男織田尚長が藩主となって柳本藩政が始まります。明治の廃藩まで250年余りにわたり織田家13代にわたって藩政が営まれ、城下町柳本の基礎が築かれました。

城郭を築いた柳本藩

近世後期、文政13年(1830年)11月2日に発生した藩邸の焼失事件を契機に、柳本藩は天保7年(1836年)から天保15年(1844年)にわたる長年の歳月をかけ、城郭の再建を図っています。柳本公園で行われた「柳本藩邸第4次調査」では、土塁と溝で区画された近世後期までの城郭跡が見つかり、石垣で築いた城郭の下層から旧地形を示す谷筋なども検出されました。このことから、現在の城郭は柳本藩の晩年の姿であること、それ以前は全く異なる形態をもつ藩邸であったことが分かりました。

嘉永7年(1854年)の柳本陣屋絵図には、城郭の一部に黒塚古墳を利用して築堤を築き、古墳の両側には外堀と内堀を構え、藩邸に面した内堀には石垣を整備し、地形に沿って方形に区画された城内通りと大手門、内堀と家老屋敷、藩邸の周囲に並ぶ家臣宅など、役所として発達した近世の風情ある城跡が描かれています。



柳本藩邸遺跡第4次調査 土塁・石垣出土状況



江戸時代末期の柳本
出典：秋永政孝『柳本郷土史論』

藩邸屋敷 旧織田屋形

城郭とともに近世後期に築かれた藩邸屋敷は、明治の廃藩置県によって藩政が終わると逐次撤去されましたが、玄関、大書院などをもつ主要建物はそのまま残され、明治10(1877)年には小学校として柳本村民に払い下げられました。明治34(1901)年には、藩邸跡の建物に校長室や標本室等が整備され、便宜上から畳を撤去して板床に切替えられるなど一部改造が加えられています。戦後は児童数の増加、校舎の老朽化などから校舎の建替えが計画され、地元有識者の勧めにより檀原神宮「文華殿」として移築され、昭和42年(1967)に重要文化財に指定されて現存しています。



移築された柳本藩邸(檀原神宮文華殿)

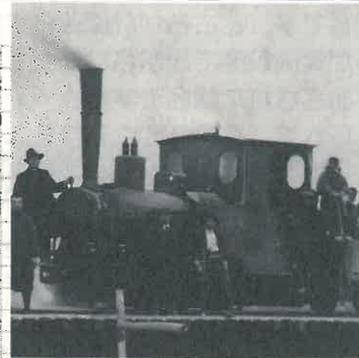
柳本の土地台帳

土地の形状、地番、地目、面積を記載した明治年間の土地台帳を、所有者の協力により出展しています。明治の地租改正を契機に作成されたもので、昭和35(1960)年の土地台帳廃止まで柳本の地籍図として基準をなしていました。かつて織田柳本藩が藩政の命運を注いで築きあげた知行地の形状、ため池や水利の状況を伝えてくれます。

第Ⅱ部 「天理駅」のはじまり～天理軽便鉄道開通100年～

大正普請と鉄道計画

明治末からの天理教主要施設の整備(大正普請)に伴い、丹波市町付近では県外との往来が急増します。既にいまの市民会館付近に国鉄⁽¹⁾(現・JR)桜井線の丹波市駅がありましたが、関西本線の法隆寺駅で下車して徒歩で丹波市町に向かう人も多くいました。そこで法隆寺駅と丹波市駅を短絡する鉄道が計画され、大正元(1912)年に「天理軽便鉄道株式会社」を創立。工事は翌年から始まり大正4(1915)年1月に完成、同年2月7日に開通を迎えました。丹波市駅前に設けられた真新しい駅は「天理」と命名され、私たちが慣れ親しんでいる「天理駅」という呼び方がこのときはじまりました。



1 天理軽便鉄道の蒸気機関車

開通当時のようす

当初は小形の蒸気機関車が客車1～2両と緩急車⁽²⁾を牽き、新法隆寺～天理間を1日13～15往復、34分で結びました。軌間(線路幅)は762mm(現在の半分強)、客車も1両42人乗りと小さく、大祭の時などは客車が不足するため貨車にムシロを敷いて代用客車としていました。途中に額田部、二階堂、前裁の駅が設けられ、列車は二階堂駅ですれ違いました。



2 平端駅付近の工事風景(大軌合併後)

大阪電気軌道(現・近畿日本鉄道)との合併

大祭の時期を中心ににぎわいを見せた天理軽便鉄道ですが、地元に戻る際に奈良観光に立ち寄る帰参者が多かったことから片道のみ利用が多く、苦しい経営を強いられました。

いっぽう大正7(1918)年には、大阪の上本町と奈良を結んでいた大阪電気軌道(大軌)による西大寺～檀原神宮前間の畝傍線(現・檀原線)計画が、同線によって打撃を受ける天理軽便鉄道などの買収または損失補填を条件に特許を取得します。

これを受けて事業譲渡が実施され、大正10(1921)年の元日から天理軽便鉄道は大軌の「天理線」⁽³⁾となりました。大軌は畝傍線の工事に合わせ平端駅を新設、平端～天理間を電化するとともに軌間を1435mmに拡幅し、大正11(1922)年4月から上本町～天理間の直通運転を開始します。これと同時に従来規格の平端～新法隆寺間は「法隆寺線」と改称され、同線は戦時中に不要不急路線とされ姿を消しました。



3 上本町駅から移築された天理駅舎(昭和39年撮影)

「天理線」のあゆみ

拡幅・電化後の天理線のあゆみを年表形式でご紹介します。

- 大正14(1925) 教祖40年祭にあわせ上本町駅の旧駅舎を移築。
- 昭和7(1932) 陸軍特別大演習に伴い、神武御陵前～天理、二階堂～上本町などに私鉄初のお召列車を運転。
- 昭和11(1936) 教祖50年祭にあわせ、天理線に全国初の自動連動装置を導入。三階堂駅・前裁駅の信号やポイントを平端駅で遠隔操作。
- 昭和40(1965) 天理駅を現位置(天理総合駅)に移設。
- 昭和44(1969) 架線電圧を600Vから1500Vに改める。
- 昭和48(1973) 平端駅を現位置に移設、大形車乗り入れ開始。
- 昭和63(1988) 平端～天理間の複線化が完成。
- 平成27(2015) 天理軽便鉄道開通100年を迎える。



4 お召列車の車内

【註】

(1) 公共企業体としての日本国有鉄道(国鉄)の成立は昭和24(1949)年ですが、ここではそれ以前の官営鉄道についても便宜的に「国鉄」と表記します。

(2) 天理軽便鉄道の客車にはブレーキがついておらず、機関車の制動力補完や非常時対応のため、ブレーキを装備して車掌ないし制動手(ブレーキマン)が乗務する車両が別途必要でした。これを緩急車と呼んでいます。

(3) 路線名について合併当初の名称を「天理鉄道線」とする研究もありますが、申請文書等では電化の前後を問わず「天理線」「天理鉄道線」が混在し、厳密な使い分けはないようです。

写真出典 1: 近畿日本鉄道1960『50年のあゆみ』p.25 2: 近畿日本鉄道1990『80年のあゆみ』p.44～45 3: 西田博嘉2007『天理の駅・昔と今』p.13

4: 近畿日本鉄道1960『50年のあゆみ』p.37 5: 近畿日本鉄道1990『80年のあゆみ』p.244



5 複線化工事風景

天理線の駅名について

現在の天理線には二階堂、前栽、天理の各駅があり、これらは天理軽便鉄道開通当時の駅名です。ところが計画段階の図面には「藤川」「杉本」「新丹波市」の駅名が見え、これらが実施段階で現駅名に変更されました。二階堂と前栽は、新旧とも駅周辺の地名にちなんで命名された駅名ですが、「新丹波市」から「天理」への変更は駅周辺に「天理」の地名がみられず、宗教名に由来することが明らかです。事実、大正11(1922)年の新聞広告にも「天理(丹波市)」とあって、当時は「天理」だけでは場所が理解されなかったようです。

地名ではなく宗教名を冠する駅名が、どのような経緯で発案されたのかはわかりません。しかし、のちにこの地には「天理市」が成立し、総合駅建設の際には国鉄の駅名も「天理」に統一されるなど、今では「天理」が地名として浸透しています。100年前の「天理駅」の成立は、「天理」の地名化がはじまった瞬間といえるかもしれません。



出典:『朝日新聞』大正11(1922)年3月28日付

出動！ 発掘現場レポート！！

平成26年度下半期の調査

天理市教育委員会は平成26(2014)年度下半期に発掘調査を4件実施しました。ここではその成果をいち早くお知らせいたします。

■小路遺跡第6次

宅地造成工事に伴い小路町内で調査をおこないました。縄文時代晩期の土器片を含む川跡が見つかり、遅くとも縄文時代にはここに川が流れていたようです。

■都市計画道路別所丹波市線事業に伴う調査〔前年度から調査を継続〕

豊田町内での調査で新たに未知の横穴式石室が発見されました。巨石を用いた大型横穴式石室で、出土遺物から7世紀前半に築造されたものとみられます。「豊田トンド山古墳(仮称)」と命名することを検討しています。

■小路遺跡第7次

宅地造成工事に伴い小路町内で調査をおこないました。6次調査で見つかっている川跡の続きを検出したほか、古墳時代前期ごろの土器を含む地層も確認しています。

■布留遺跡杣之内地区試掘調査

駐車場造成に伴い、布留町・杣之内町内で調査を行ないました。古墳時代の掘立柱など多数の遺構を確認し、調査地付近では珍しい弥生中期の土器も出土するなど大きな成果が得られました。

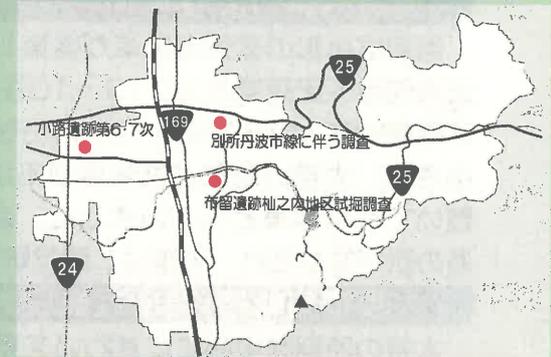
**平成27年度の調査成果は
来年冬の文化財展で
展示するよ！**



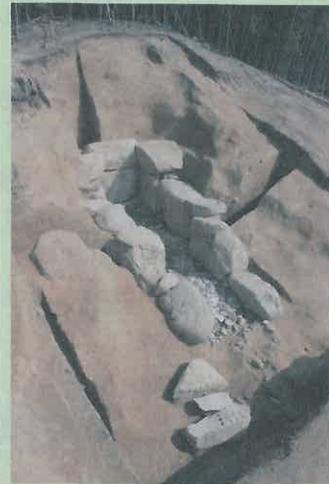
昔の写真を探しています

今ではもう見られなくなった街並みや建物、風景などを写した写真は、たとえ小さな写真一枚であっても、本市の歴史を物語る貴重な資料です。このような写真をお持ちでしたら、ぜひ文化財課までご一報ください。

問い合わせ：天理市教育委員会文化財課 Tel・Fax 0743-65-5720



■平成26年度下半期の調査遺跡



■豊田トンド山古墳(仮称) 石室全景(南から)



■布留遺跡杣之内地区試掘調査 掘立柱群検出状況(東から)

発行◆天理市教育委員会 文化財課
天理市埋蔵文化財センター
〒632-0017 奈良県天理市田部町320
Tel・Fax 0743-65-5720

印刷◆富光株式会社

※「天理市埋蔵文化財センターだより」Vol.21 は、平成28年冬発行予定です。お楽しみに！！